

# 平成 31（2019）年 3 月定例記者会見概要と質疑応答

平成 31（2019）年 3 月 5 日  
午前 11 時～午前 11 時 59 分  
第 6 会議室（第二分館 2 階）

## 1 発表事項

### (1) 柏崎フロンティアパークで（株）トライテックが事業拡張

（主管：ものづくり振興課）

柏崎フロンティアパークで株式会社トライテックが事業拡張を行います。先月もフロンティアパークへのユアテックの移転をお伝えしました。現在、フロンティアパークで 1 区画を利用している株式会社トライテックが、本日午前 9 時過ぎにフロンティアパークを担当している中小企業基盤整備機構と正式な土地の譲渡契約を締結しました。トライテックは、もともと柏崎で創業され、柏崎の方が社長の企業です。平成 6（1994）年に会社を設立し、現在は、外装用建材にインクジェットプリンターで印刷を行う事業を行っています。この外装建材の加飾に加え、今回の事業拡張で内装用建材の加飾用途を追加し、業容拡大を図ります。今後、地域経済をけん引する中核事業としてさまざまな面で地域に貢献してもらいたいと思います。特に、市内で創業し、経営者が市内の方なので期待を高めています。裏面のカラー地図をご覧ください。フロンティアパークには全部で 31 区画あります。今回のトライテックは黄色の 14 番、16 番の区画を契約締結してもらいました。オレンジ色の 29 番、30 番が先月まで、分譲中としていましたが、先月の記者会見以降に新たなお話しがあり、現在は交渉中となりました。よって何もない状況になっているのは、17 番 1 つのみとなりました。中小企業基盤整備機構や職員の頑張りにより、このような状況に至り、非常に喜んでいきます。

### (2) 県内初、公共工事で発生する廃電線を障がい者就労支援に有効活用－柏崎電気工事協同組合から事業提案

（主管：福祉課、契約検査課）

柏崎電気工事共同組合から事業提案をいただきました。柏崎電気工事共同組合は、以前からの加盟業者によって社会貢献活動をしています。この度、公共工事で発生する廃電線を有効活用して障がいをお持ちの方々の就労支援に取り組んでいきます。市として、このありがたい申し出に協力していきたいと思います。廃電線の有効活用とは、使われなくなった電線のビニール部分を剥ぎ、中の銅線などを取り出し、有価物回収業者に回収してもらい再資源化する取り組みです。事業の流れは、資料の裏面にあります。柏崎電気工事協同組合や柏崎

刈羽電設業協会が公共事業で出た廃電線を障害福祉サービス事業所に持ち込み、障害福祉サービス事業所で作業をし、有価物の回収業者に渡します。今回は、公共工事で発生した廃電線を有効活動する取り組みですが、すでに民間工事では、平成 30（2018）年 6 月からロングランが取り組んでいます。ロングランから引き続き、作業を担ってもらいます。最初は、それほど多くないかもしれませんが、私どもとしては、障がいをお持ちの方々の就労機会を少しでも拡大していきたいと考えています。

### **(3) 「介護予防・生活支援サービス集」と「地域資源マップ」を作成**

(主管：介護高齢課)

全国の自治体で介護予防や生活支援のサービスを行っています。ただ、一般市民の方や介護を受ける立場の方、そのご家族の方などからみて柏崎には、どういったサービスがあり、どういったサービスを使うことができるのか、なかなか複雑です。「介護予防・生活支援サービス集」では、サービス名と連絡先などをシンプルに案内しています。

お配りした「地域資源マップ」は、比角地区のものです。ご自分の住んでいる地域の介護予防、生活支援の施設やサービスを地図上で分かりやすくお伝えしています。

サービス集には 2 つのつづり穴を開けています。これは、新年度予算で計上した全戸配布する予定のファイルにとじてもらうためです。サービス集とマップは、全戸配布は行いませんが、ご希望の方にはお住まいの地域の包括支援センターや市役所、元気館などで配布します。ご自宅でファイルにとじてもらいたいと思います。

サービス集もマップも連絡先などが非常に大きな字で書かれています。移動販売の事業者も全て記載してあり、かなり便利だと思いますので、ご利用いただきたいと思います。

サービス集やマップをそれぞれ作成した自治体はあるようですが、サービス集とマップを組み合わせて作ったのは、県内では、おそらく初めてだと思います。

### **(4) 綾子舞が「全国民俗芸能『風流（ふりゅう）』保存・振興連合会」に加入—全国の保存団体と連携**

(主管：博物館)

柏崎市が誇る国の重要指定民俗文化財綾子舞が全国民俗芸能風流保存振興連合会に加入し、全国の保存団体と連携していきます。綾子舞は、昭和 51 年 5 月 4 日に国の指定重要無形民俗文化財第 1 号として指定を受けた 30 の民俗芸能の 1 つです。綾子舞は民俗芸能中で風流というグループになり、同じ民俗芸能のグループが連合会を作り、保存、振興を進めていこうと

いうものです。柏崎市綾子舞保存振興会の茂田井信彦会長が連合会の副会長に就任しました。連合会の会長は、香川県まんのう町の綾子踊の会長が就任しました。茂田井会長さんは、副会長としてこの会全体を引っ張ってもらうことになります。ゆくゆくは、綾子舞を世界に発信したいと思っています。綾子踊さんをはじめ、この風流のグループでユネスコの無形文化財登録につながっていくよう応援していきたいと思っています。何といたっても柏崎が誇る綾子舞が日本全体に、そして世界に展開されるためのステップになっていくことを期待しています。茂田井会長には、全体の副会長としてご尽力いただきます。

### **(5) 全日本ジュニア (U17) 水球競技選手権大会「かしわざき潮風カップ」**

(水球のまち推進室)

5回目となる水球ジュニア日本一を決定する全日本ジュニア U17 水球競技選手権大会「かしわざき潮風カップ」が3月17日から開催されます。今年は、東京オリンピック、パラリンピックの水球のホストタウンになっているセルビア共和国特命全権大使のネナド・グリシッチさんにお越しいただきます。ネナド・グリシッチさんからは、剣野小学校で児童の皆さんにセルビア共和国の歴史や文化などの授業していただきます。毎年、この潮風カップにたくさんチームが参加するのは、もちろん優勝を狙ってということもありますが、負けてしまっても敗退したチーム同士による試合形式の練習会「チャレンジゲーム 2019」に参加できるからだと思います。この「チャレンジゲーム 2019」が、かしわざき潮風カップの特徴だと考えています。こういった取り組みを継続することで水球の底上げや市民の皆さんの水球への興味関心を東京オリンピック、パラリンピックに向けてより一層高めていきたいと考えています。

水球てっぺん汁を3月19日に保育園、小・中学校の合同メニューとして提供します。

柏崎青年工業クラブの皆さんから、このようにメダルを作ってもらいました。表には、水球のボールをシュートする様子、後ろには大会名や優秀選手賞が書かれます。これは、ブルボンのお力添えで作ってもらいました。男女各7人に贈呈します。

### **(6) 「生徒にとっても教員にとっても魅力ある部活動」を目指して—「中学校部活動ガイドライン」を策定**

(主管：学校教育課)

これは、柏崎に限らず県内、もしくは、全国でこの部活動ガイドラインを策定していると

承知しています。柏崎市でも関係者の聞き取りを経て、ガイドラインを策定しました。いろいろな考えがあろうかと思いますが、私どもの中学校時代とは、社会環境が違ってきています。今、先生方の多重労働や働き方改革ということがあります。生徒にとってはもちろんですが、教員にとっても魅力ある部活動のガイドラインを策定しました。柏崎市のオリジナルのところはありませんが、いろいろな関係者の方々から意見を伺いながら策定しました。今年の4月から適用したいと考えています。

## **(7)「ぎおん柏崎まつり 海の大花火大会」有料観覧席の申し込みを開始**

(主管：商業観光課)

早いもので、ぎおんの花火の申し込みの時期になりました。ぎおん柏崎まつり海の大花火大会の有料観覧席の申し込みを4月1日午前9時から開始します。おかげさまで昨年、一昨年とも適度に風が吹き、2年続けて非常にいいコンディションのもと、花火を上げることができました。たくさんの方から柏崎の海の大花火大会が日本一だとお話をいただきました。少なくとも海で打ち上げる花火大会では日本一の花火大会だと自負をしています。ぎおん柏崎まつり海の大花火大会は、約2時間で約1万5千発の花火を打ち上げます。お隣の花火大会が2日間で2万2千発ですので、こちらは2時間ほどの間に1万5千発をテンポよく上げるということにも多くの方から称賛のお声をいただいています。

昨年初めて試みたBS放送でのテレビ放送も昨年に引き続き実施したいと考えています。また、現在、これまで花火大会をなかなか見る機会のなかった方に、試験的に花火を見てもらおうと検討しています。市民一同という花火は市民の皆さんからの寄付により打ち上げています。しかしながら、お金は出しているが、遠いし、年を取っているし、見たことがないというお年寄りの皆さんの声を、私が議員の時からずっと聞いていました。そういった方全員にというわけにはいきませんが、何とかご覧いただきたいと思っています。

そういった意味で、昨年のBS放送でのテレビ放送も市内・外の方、柏崎出身者の方に大変喜んでいただいた企画だと思っています。より一層、柏崎の大花火大会が市内・外の方に喜んでもらえるような試みを取り組んでいきたいと考えています。

ポスターは、ちょうど夕焼けが映えたところの写真ですが、今年はどういった準備や演出になるか楽しみです。

春になりたくさんの行事がありますが、行事をひとつ紹介します。鉄道活性化の講演会が3月21日に長岡グラウンドホテルで行われます。柏崎で行われるわけではないですが、柏崎市も企画に参画をしているので、ご紹介します。講演会には、有名な鉄道写真家の矢野直美さんと県職員で観光列車の雪月花を企画した黒崎直史さんを講師としてお招きします。事務局は、上越・北陸新幹線直行特急実現期成同盟会事務局で市の企画政策課内にあります。

## 2 質疑応答

### ◎海の大花火大会に関する質問

**記者：ぎおん花火大会を市内の様々な方に見てもらうため、具体的に何を行うのか。**

市長：郊外や農村部、山間部には、1回も柏崎の花火を見たことがないというおじいちゃん、おばあちゃんがいて、そういった方の声をずっと聞いており、何とかしたいと思っていました。今、考えているのは、バスでなるべく花火会場の近くにお連れして、お年寄りの方が利用しやすい椅子席を用意したいと思っています。お手洗いにもなるべく近い席を確保して、今まで見たことのない方に、見てもらいたいと考えています。どの地域の方をお招きするかなど詳しいことは、現在検討中です。

### ◎柏崎フロンティアパークに関する質問

**記者：トライテックの現在の従業員数と、業容拡張による雇用の、どの程度期待できるか。**

市長：トライテックの従業員数は、ホームページで確認したところ約50人でした。新規雇用に関しては、業容拡張が2022年で、本日土地の譲渡契約が済んだばかりですので、まだ分かりません。私どもとしては、今後の新規雇用拡大を期待しています。業容拡張で行うインクジェットが外装や内装建材に使われていることを初めて知りました。これは、新しい分野だろうと思います。そういう意味では、やはり人手というより人材、一定程度の能力を持った方が、勤めるとしますので、採用してもらえようような人材育成をしっかりと考えていかなければならないと考えています。

**記者：フロンティアパークの交渉中の区画は、どの程度のめどがたっているか。**

市長：ここ1週間ぐらいで29、30番は、非常に前向きな話だと聞いています。その他の21、24、27、20番も前向きな話だと聞いています。話が始まったばかりで10パーセントとかいう段階ではありません。

**記者：何割ぐらいでしょうか。**

市長：かなりいっていると思います。もう少し時間かかるかと思いますが、半分以上はいけるだろうと思っています。期待しています。

### **◎中学校の部活動のガイドラインに関する質問**

**記者：中学校の部活動のガイドラインで、一番考慮して、策定した部分はどこか。**

市長：皆さんも中学生のときに部活動の経験があると思います。私自身は中学校の時、陸上部でした。選手としては、大した選手ではありませんでしたが、一生懸命やったというのは間違いありません。陸上部の先生に仲人までお願いしたぐらいです。部活動にかなりのめり込んでいました。ただ、私の頃と中学生自身や指導する先生の部活動の捉え方が、現在と全く違うと思います。先生は、自分の生活があり、部活動のほかに学校の仕事もあるので、どうしても勤務時間が長くなってしまいます。土曜日でも日曜日でも部活動になると先生自身の心や体の管理も難しくなっていると思います。一方、子供さんも、過熱気味なところがあります。近頃、新潟県高野連が提案した球数制限の話もあります。今の社会情勢や教育環境、保護者と子供達の意識ということを考えると一定のガイドライン、つまり制限があってしかるべきではないかと思っています。

**記者：熱中症で部活動の最中に亡くなったり、野球選手が肩を壊してしまったりと、ガイドラインは子供達を守るものだと思うが、どうか。**

市長：新年度に部活動指導員の採用を考えています。子供達は教えてもらいたいという意欲

があります。意欲が勝るがゆえに子供ですからやりすぎてしまう所があります。そういった所を上手に見極めてもらうなど、今まで、学校の先生だけの責任であったものを部活動指導員を採用することで先生の負担を軽減し、指導の充実をしていきたいと思っています。今までもそれを目指してきましたが、よりバランスのとれた部活動指導ができるようにしていきたいと考えています。

**記者：指導員は、各学校に1人ずつ配置されるのか。**

市長：予算の限りがありますので、全ての部活、全ての学校ではありません。部分的ではありますが新年度から部活動指導員を採用したいと考え、新年度予算に計上しました。

**記者：大会の前でも、きちんと休みを取るといった指導をしていくのか。**

市長：基本的に学校のことは、学校長の責任と裁量の中で判断することだと思いますが、休みを取るなど、しっかりとした部活動のガイドラインが必要だろうと考えています。

**記者：県内の市町村で参考とした所はあるか。**

市長：6月に県が全県的な調査を行い、その際に柏崎刈羽地区で出された意見を参考しました。また、保護者やPTA、学校長、教職員の考えも聞きました。当然ですが、一生懸命やって貰いたいという保護者もいれば、勉強の時間を確保してやりたいという保護者もあり、両方の意見を聞かせてもらいました。市PTA連合会には2月23日の協議委員会で説明しました。

**記者：教員から学校現場の状況にどういった声があったか。**

市長：先ほどお話ししたように県が全県調査を行った際の柏崎刈羽の集計結果の中の教員の声を参考にしました。また、県の調査のほかにも日常的な先生との話の中で事情を聞かせてもらいました。先生の中にも2タイプあると思います。自分が専門にスポーツをやっている方は、もっと教えたい、もっとやりたいという意欲を持っています。一方で、スポーツのみならず文化部も自分が専門ではないが担当している方は、中々他の業務も忙しいということ

もあると思います。先生の意識も違いがあると思います。ただ、先生ご自身の仕事の在り方、また生徒の時間の使い方、あまりにも熱が入り過ぎていて、バランスに欠けているのではないかと心配している先生も多いと聞いています。

### ◎廃電線の有効活用に関する質問

**記者：どの程度の雇用が生まれるか。また、どのような障がいの方を想定しているか。**

市長：来年度に公共事業によって出てくる廃電線の量は、約 300 キログラムと想定しています。300 キログラムの廃線、廃電線による収益は約 8 万円です。それに携わっている関係者の数からみれば、それほど多くありません。しかし、私どもがこういったことを始めることによって、もっと民間の方に取り組んでもらいたいと思います。ですので、雇用が何人だとか、というところまでは大きくは展開できません。まずは、呼び水として平成 31（2019）年度の公共工事で 300 キログラムの廃電線を提供し、約 8 万円分の作業をしてもらいます。

**記者：柏崎市の障がい者雇用に対する問題意識はあるか。**

市長：柏崎の事業所の障がい者雇用率は非常に低く、県内でも低い部類に入ると思います。私ども柏崎市も民間事業者も非常に強い問題意識を持っており、こういった取り組みから協力をしてもらっています。雇用主側の意識も必要ですし、障がいをお持ちの方の団体の協力も必要です。スモールスタートとなりますが、今後、障がいを持ちの方の雇用機会の拡大に努めていきたいと考えています。

### ◎綾子舞保存振興連合会の加入に関する質問

**記者：綾子舞の保存振興連合会の加入について、どのように思うか。**

市長：綾子舞が単独でユネスコ登録ができればベストだと思いますが、それはまんのう町の綾子踊も同じだと思います。ユネスコの事務局である文化庁の話によると、最近では単独でのユネスコ登録は難しいと聞いています。2020 年には「日本の伝統建築の匠の技」としてま



とめてユネスコ登録をしたいという動きがあります。柏崎の場合は500年も伝統芸能として綾子舞を培ってきているわけですが、綾子舞を含めた風流として世界に発信するためのツールとしてユネスコ登録を行うのも、この連合会の目的の一つです。

## ◎イトーヨーカドー跡に関する質問

**記者：イトーヨーカドー跡にツルハドラッグが来るという話があるが、受け止めは。**

市長：この件には、市として関与はしていませんので、報道により知りました。うまく話が進めば非常にありがたいと思っています。前からお話ししていたようにイトーヨーカドーが更地になった後、駅前の一等地が2年も3年も空きっぱなしで、何のめども立たないというのが最悪のパターンだと考えていた中で、一定程度前向きな計画が提示されたことは、ありがたいことだと思っています。

**記者：駅前の中心店として効果を期待しているか。**

市長：もちろん期待しています。ただどういったお店なのか詳しく承知していませんが、何もない状況から一定の流れができるというのは非常にありがたいと思っています。新しい店舗が、周辺の商店街にプラスであると確信しています。

**記者：どのような商品があれば住民にとってありがたいか。**

市長：ドラッグストアにも色々な形態があり、様々な物品を扱っていると思います。報道で知る限り、敷地が全部使われないと聞いているので、空いている部分にも新たに展開してもらえると非常にありがたいと期待しています。そういった中で行政がお手伝いすることがあるのかなのか、情報を収集しているところです。

## ◎高野連の球数制限導入に関する質問

**記者：県高野連の球数制限などの提案への期待はあるか。**

市長：新潟県高野連が球数制限というかたちで一石を投じたのは非常に大きいことだと思います。私はその方向性を支持します。私の次男三男も学童野球で、ピッチャーをやっていました。やはり学童期から投げ過ぎるのはあまり良くないのではないかと感じていました。ただ、やはり先ほどの部活動と同じで勝負事ですので、どうしても監督さんも指導者も頑張らせようという気持ちもありますし、親の方も同じ気持ちもあります。そういった中で、県高野連がいわゆるガイドラインとして一石を投じたという意味は非常に大きなものであり、高く評価をしています。県高野連の一石を、日本高野連がもっと真摯に受け止めてもいいのではないかと思います。

**記者：日本高野連は、県高野連に対して再考を求めているが、どのように受け止めているか。**

市長：私は日本高野連が再考した方がいいかと思います。球数制限を設けると、ピッチャーが一人しかいないチームが出られなくなることも考えられますが、やはり大事なのは、高校生の将来だと思います。将来を潰すようなプロセスが高校生活であるべきではないと思います。県高野連に再考を促していますが、スポーツ庁長官も理解を示しているようですので日本高野連が再考することを期待しています。

## ◎ドナルド・キーンさんの訃報に関する質問

**記者：今後、キーンさんの功績を伝える計画はあるか。**

市長：私が学生時代に東京にいた時、ドナルド・キーン先生の著書を読み、講演を聞いたことがあります。ブルボンのお蔭で柏崎にご縁をいただきました。日本文学を研究し、帰化して日本人になったドナルド・キーン先生の存在は、非常に大きなものでありました。お別れの会が行われるそうなので、ブルボンの吉田さんに協力したいと伝えました。これから、少し落ち着いてから、キーン誠己さんと相談しながら、キーン先生の美德を偲ぶような文化的

な活動を企画したいと考えています。

## ◎ソルトスパ潮風の休館に関する質問

**記者：ソルトスパの休館について、受け止めは。**

市長：ソルトスパが残念ながらお休みをすることになりました。ロケーションに大変価値があると思っています。かといって行政がさらにお金を出すことは考えていません。新年度予算で、市が温泉権を持っているため、温泉施設の修繕費用を計上しています。予算で計上しているわけですので温浴施設として価値があると考えています。今後、潮風温泉に興味、関心を持つ事業者が出てきてもらいたいと期待をしています。

**記者：市として仲介などを行うか。**

市長：潮風温泉の問い合わせがあれば、現在の状態などお答えしますが、潮風温泉は民間企業ですので仲介などは行いません。

**記者：休館による観光や住民への影響はあるか。**

市長：近所に住んでいる方からは、風呂代わりに使っていたという声を多く聞きます。しかし、その声をそのまま受け取って市がお金を投入することはありません。市としては、どのような形態であれ再開をしてもらいたいと強く思っています。

**記者：観光地を巡った後に温泉に行く方もいると思うが、マイナス面はないか。**

市長：柏崎のトップシーズンは夏になります。プライベートな話で恐縮ですが、うちの妻は潮風マラソンの後に潮風温泉で汗を流していて、今年はどうしてくれんだというようなことを言います。再開が、早ければ早い方がいいわけですが、夏前の早い時期に何とか再開する目処がつけば、ありがたいと思っています。

## ◎飯塚元市長の訃報に関する質問

**記者：飯塚元市長が亡くなりましたが、どう思うか。**

市長：昨日、第7代柏崎市長の飯塚正さんをご逝去されました。私から見れば、28歳で柏崎に戻ってくる時に、最初に政治の道に入ることを相談した3人のうちの1人です。それから28年間御指導いただきました。飯塚さんが市長になる前に柏崎市議会の議長を勤めていました。その当時、原子力発電所の誘致や私有地の売却など、正に体を張り難儀をされました。歴代の柏崎市議会議長の中で1番難儀をされた議長だったかもしれません。その後、議長を経て市長になりました。2019年は、1969（昭和44）年に柏崎市議会が原発を誘致してからちょうど50年です。その当時から原発に関わり、地域振興を強く願ってきた飯塚正さんが亡くなったということは私個人としても、市長を引き継ぐ者としても、絶言の極みです。もっとご指導をしてもらいたかったという思いがありますが、心からのご冥福をお祈りします。飯塚さんが遺した原子力発電所に関する足跡は、余事に換えがたい、非常に大きな、そして重みのある足跡だったと考えており、心からの敬意を表したいと思っています。

以上